



会津農林かわら版

会津農林かわら版 第40号 (令和6年2月)

JA会津よつばかすみ草部会 日本農業賞で大賞を受賞

第53回日本農業賞の集団組織の部において、JA会津よつばかすみ草部会が大賞を受賞しました。日本農業賞はJA全中、NHK、都道府県農業協同組合中央会が主催しており、意欲的に経営や技術の改善、地域社会の発展に取り組む個人・団体を表彰しています。この度、厳しい自然環境の中で一大産地をつくり上げたことや、新規就農者の育成による高い将来性などが評価されました。

JA会津よつばかすみ草部会は昭和村、柳津町、三島町、金山町の91戸の生産者で組織され、夏秋期日本一の産地としてかすみ草が栽培されています。また、雪を利用した集出荷施設「雪室」で全量予冷することで、夏季でも鮮度を保持したまま全国の市場へ出荷しています。令和5年度の販売額は6億4,795万円で、過去最高額となりました。また、令和5年7月20日に花きでは全国で2例目となる地理的表示（GI）保護制度に「昭とかすみ草」が登録され、一層のブランド力向上が期待されています。

なお、表彰式は令和6年3月9日にNHKホールで実施されます。関係者の皆様、誠におめでとうございます。

(会津坂下農業普及所)



第40号 目次

JA会津よつばかすみ草部会 日本農業賞で大賞を受賞 / ふくしま農村学びの場事業で次世代を担う若者が土地改良施設を見学しました / 学校給食で会津の伝統野菜「おたねにんじん」を活用した食育を実施しました / 異業種経営者の考えを学ぶ研修会を開催しました / 高校生林業見学会を開催しました / 桐と桐文化の恵みに感謝する植樹祭が開催されました / 沖縄県において会津米魅力発信キャンペーンを開催しました / 会津地方トルコギキョウ振興セミナーを開催しました / 田んぼダム取組効果観測業務に係る研修会が開催されました / 会津地域新規就農者等担い手確保・育成連携協議会及び会津地域就農促進セミナーを開催しました / 農業競争力強化農地整備事業 堰場地区の権利者会議を開催しました / 両沼女性ネットでさつまいもの加工に取り組みました！ / 新規就農者等研修会（第3回）「農業機械の点検・整備の基礎」を開催しました / 令和5年度「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」実績検討会を開催しました / 今日からチャレンジしませんか。GAPを始めよう！勉強会を開催しました / 第5回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました / フレッシュ農業講座を開催しました / 一般社団法人会津自然エネルギー機構が林業研究活動発表会で最優秀賞を受賞しました / 学校給食研究会で有機農業の取組について紹介しました / 令和5年度新規就農者等研修会（第6回）を開催しました / 令和5年度会津地方きゅうり生産振興セミナーを開催しました / 地域振興にドキュメンタリー映画を活用している取組を紹介（西会津町）

会津農林事務所からのお知らせ

福島県農林水産部公式YouTubeチャンネル「1400のネタばらし」配信中 / 会津農林事務所SNS更新中

「ふくしま農村学びの場」事業で次世代を担う若者が 土地改良施設を見学しました

令和5年11月15日、「ふくしまの農村学びの場」事業として、福島大学の学生を対象に、土地改良施設が有する農業生産や国土、自然環境の保全などの様々な機能や役割について理解を深める現地見学会を行いました。

福島大学食農学類生産環境学コースの2年生23名が参加し、はじめに県や建設会社の担当者から説明を受けた後、会津若松市内の水路やほ場整備の工事現場において、測量や重機搭乗を体験しました。次に、農業用ダムである会津美里町の新宮川ダムに移動し、施設の管理に使用している堤体内通路を見学した後、操作室でダムの管理などについて説明を受けました。

見学会終了後、大学生から「実際に働いている人の話を聞いて参考になった」、「地域の農業を支え、防災や地域活性化に貢献できる素晴らしい職業だと思った」、「自らの進路選択に本日の経験を生かしたい」などの感想が寄せられました。

今回の見学会は、大学生が多角的な視点から農業土木を学ぶ良い機会となりました。

(農村整備部)



▲笹山放水路地区



▲高野地区



▲新宮川ダム

学校給食で会津の伝統野菜「おたねにんじん」を 活用した食育を実施しました

小中学生やその家族に、会津の伝統野菜であるおたねにんじんへの関心を高めていただくため、農林事務所では平成30年度から学校給食でおたねにんじんを活用した食育の取組を行っており、今年度は管内の小中学校47校で実施しました。

そのうち喜多方市立山都小学校では令和6年1月22日に、ご当地キャラクターの「おたねくん」と一緒に、おたねにんじんに関する紙芝居の上演やクイズを行った後、提供したおたねにんじんを使った「おたねにんじん入り根菜カレーライス」が給食でふるまわれました。児童からは「苦くなくて美味しい」「おかわりしたい」などの感想があり、楽しく料理を味わいながら、おたねにんじんについて理解を深めているようでした。

また昨年に引き続き、会津大学短期大学部食物栄養学科の左教授やゼミの皆さんに、おたねにんじんを使った「鶏まぜごはん」や「カレー風味焼きそば」「てり焼きチキン」のレシピを考案していただき、これらのレシピは18校の給食で使用されました。

今後も関係機関と連携しながら、おたねにんじんの消費拡大と食育及び地産地消を推進してまいります。

(企画部)



▲「おたねくん」と一緒に紙芝居を見る児童たち



▲「鶏まぜごはん」を味わう児童



▲会津大学短期大学部 食物栄養学科 左ゼミの皆さん

＼異業種経営者の考えを学ぶ研修会を開催しました／

令和5年12月11日、令和5年度農産物・加工品の販売力向上研修会Part2を、会津坂下町にある株式会社太郎庵の新工場研修室で開催しました。

近年、農業所得向上には、消費者や実需者の要望に応じた農産物の高品質化や高付加価値化に努めながら、どのように販売するかが一層重要になっています。農産物・加工品の販売力を向上させることで、自らの経営を理想に近づけていくにはどうすべきか、自らの所得向上と経営の発展につなげることを目的に、ワークショップを行いながら、商品開発や販売への考え方を学びました。

福島県普及指導協力委員(※)をお願いしている株式会社太郎庵代表取締役の目黒徳幸氏を講師として、前回(8月)の検討結果(経営の現状とありたい姿に差があることを明確にすべき)を踏まえ、今回は「その差を埋めるために必要なことは何か」をテーマとして学習を進めました。

講師からは「困難な時にはかならず太郎庵宣言(会社の理念)に立ち返って取り組んでいる。」、「AIが正解らしい答えを導いてくれる時代になった。だからこそ相手に自分の気持ちや熱量を伝えることがより大切。それはAIに出来ないことだ。」などの話がありました。

日頃の農業経営に取組む姿勢や考え方について示唆に富んだ内容で、参加者からも好評な研修会となりました。(会津坂下農業普及所)

※専門的な立場から普及活動について指導助言をいただくために県が委嘱している有識者。



▲講演する目黒徳幸氏



▲研修会の様子

＼高校生林業見学会を開催しました／

林業分野の新規就業者の確保と林業の理解促進を目的として、会津農林高等学校の生徒を対象に林業見学会を開催しました。

令和5年9月25日は、森林環境科の2年生と教諭を対象に、森林整備作業現場見学や製材施設見学、林業施設見学会を、令和5年11月7日は、産業技術科の2年生と教諭を対象に、菌床しいたけ生産施設見学と収穫体験、林業研修施設見学を行いました。

プロの技や最先端の林業技術に触れたことで、生徒たちの思い浮かべる林業のイメージにも変化があったようで、生徒のみならず教諭の方々にも林業の役割や森林資源の活用等について理解を深めていただけた様子でした。(森林林業部)



▲林業機械シミュレーター体験



▲木材搬出作業の見学

＼桐と桐文化の恵みに感謝する植樹祭が開催されました！



▲植樹活動を行った参加者

令和5年11月12日、会津里山森林資源育成研究会による桐と桐文化の恵みに感謝する植樹祭が開催されました。

会員である斎藤桐材店が保有する西会津町の社有林を会場に、林業関係者など県内外から約70名が参加し、楽しく賑やかなイベントとなりました。

式典の後、参加者全員で県立会津農林高校の生徒が育てた桐玉植苗12本の植樹を行いました。その後、伝統工芸の継承・発展に取り組んでいるザ・クリエイション・オブ・ジャパン（東京都）による「桐材利用の現代的な意義について」の記念講演や、みなかみ町最適土地利用協議会（群馬県）及び県立会津農林高校による桐育成に関する活動報告が行われました。

会津里山森林資源育成研究会では、これからも減少しつつある桐資源の安定的な確保や桐文化の普及啓発等に取り組むこととしており、今後も活動を支えてまいります。

（森林林業部）

＼沖縄県において会津米魅力発信キャンペーンを開催しました！

令和5年11月21日～27日、沖縄県那覇市の「デパートリウボウ」において福島県会津名産品販売会が開催され、会津地域の6事業者が生産した会津米19商品の販売PRが実施されました。

また、販売会期間中の11月25日～26日に、販売促進を図るため、会津米魅力発信キャンペーンを実施しました。

キャンペーンでは、ふくしまライシーホワイトから試食やサンプル米の提供を行ったほか、一定額以上購入された方を対象に会津の6次化商品をプレゼントするとともに、会津の農産物を紹介するチラシを配布し、広く会津地域の農林水産物の魅力を発信しました。

販売会では、「コシヒカリ」や「ひとめぼれ」の商品のほか、「福、笑い」や「天のつぶ」、「里山のつぶ」なども並び、「食べたことがない品種だから、ぜひ食べてみたい」と県オリジナル品種に興味を示されたお客様も多く、早いうちに完売した商品もありました。

（企画部）



▲販売会の様子



▲ふくしまライシーホワイトによる
サンプル米の配布

＼会津地方トルコギキョウ振興セミナーを開催しました／

令和5年11月30日、会津若松市のピカリンホールにおいて会津地方トルコギキョウ振興セミナーを開催し、生産者や関係者など約60名が参加しました。

はじめに、農業総合センター作物保護科の堀越紀夫専門研究員が、立枯病の特徴を踏まえた適切な土壌消毒の方法や試験状況について講演しました。会津地方のトルコギキョウは、栽培が開始されて30年以上が経過しており、連作を起因とした土壌病害の発生などが深刻化していることから、適切な防除が重要となっています。次に農薬・資材メーカーから、最新の防除資材を紹介いただきました。

参加した生産者から、被覆資材の抑え方や土壌消毒の頻度について質問が出されるなど、より効果的な防除の実施に向け、理解を深めることができた様子でした。
(農業振興普及部)



▲セミナーの様子

＼田んぼダム取組効果観測業務に係る研修会を開催しました／

令和5年11月30日、農村振興課主催による田んぼダム取組効果観測業務に係る研修会を猪苗代町で開催しました。田んぼダムにかかる研修会は毎年開催しており、本年度は猪苗代町や猪苗代町土地改良区、地元農業者の協力により、水田への観測機器等の設置方法や、観測業務の内容について学びました。午前は地域住民や農業者など12名が、午後は市町村や土地改良区の職員など22名が参加しました。

田んぼダムは、水田の畦畔の補強や落水口に排水調整設備や堰板などを設置することで雨水貯留機能の向上を図り、大雨時に水田から排水路への流出量を抑制し、下流域の洪水被害を軽減する取組です。近年は、河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策である流域治水が全国的に推進されており、田んぼダムもその取組の一つの事業として位置付けされています。

当日は現地での研修を予定していましたが、大雪のため、猪苗代土木事務所会議室での座学となりました。

研修会では、農村振興課より田んぼダムの仕組みや取組にかかる効果、田んぼダム取組効果観測業務の内容について説明があり、参加者は、田んぼダムへの理解がより深まったようでした。
(農村整備部)



▲地域住民、農業者等への研修



▲市町村、土地改良区等への研修

会津地域新規就農者等担い手確保・育成連携協議会及び 会津地域就農促進セミナーを開催しました



▲セミナーの様子

令和5年12月4日、会津若松市ピカリンホールにおいて、会津地域の新規就農者確保の促進を目的として、令和5年度会津地域新規就農者等担い手確保・育成連携協議会及び会津地域就農促進セミナーを開催しました。

協議会では、はじめに福島県農業経営・就農支援センターから県全体の新規就農者の動向について説明した後、今年度、新規就農者確保・育成のために取り組んできた経営管理の研修会や青色申告セミナー、喜多方市で開催したふくしま農業人フェア(就農相談会)において説明した内容について紹介しました。

続いて開催した会津地域就農促進セミナーでは、JAふくしま未来の担当者から、同JAで取り組んでいる新規就農者確保対策にかかる「のれん分け方式」について御講演いただきました。「のれん分け方式」は自立できる農業者育成を目指して、新規就農者、市町村、研修受入農家、農林事務所、JAが連携して、就農計画の作成や資金確保、栽培技術の支援、農地や栽培施設の確保などを3年かけて取り組んでいく方式のことです。参加者からは新規就農者の育成体制について参考になったとの意見がありました。

今後、さらに新規就農者が安心して就農できるよう取組を進めて参ります。

(農業振興普及部)

農業競争力強化農地整備事業 堰場地区の 権利者会議を開催しました

令和5年12月12日、農業競争力強化農地整備事業を実施している堰場地区(会津若松市湊町)において権利者会議を開催しました。権利者会議は、所有する農地の換地計画を決めるために、事業の最終年度に行われる重要な会議です。

当日は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会場には地区の役員など数名が出席し、他の地権者から書面議決書の提出をいただいたの開催となりました。審議の結果、換地計画が原書どおり決定しました。

堰場地区は平成29年度に事業採択され、令和5年度まで7年の歳月と約6億1,700万円の事業費により、面積35.1haの農地が大区画のほ場に整備されました。また、農地の大区画化に合わせ担い手への農地集積も進み、集積率は従前に比べ大幅に向上する見込みとなっています。

今後、担い手の育成が進み、他地区の模範となるような、低コスト農業が実践されることを期待しています。

(農村整備部)



▲権利者会議の様子



▲整備された堰場地区

＼両沼女性ネットでさつまいもの加工に取り組みました！／

両沼女性ネットは、両沼地域に住む女性農業者が加工や直売などの新たな分野での起業などに向けて、農業に関する講習会の開催や県外視察研修などの活動を積極的に行っている団体です。今年度は、近年栽培面積が増加しているさつまいもの更なる付加価値創出のため、さつまいも加工に取り組んでいます。

令和5年12月7日に茨城県で干し芋加工施設の視察研修を実施し、高品質な干し芋の加工技術を学んだほか、12月18日には新商品の試作検討会を実施し、県産さつまいもの干し芋とスイートポテトの試作を行いました。

視察研修で学んだ技術を活かした試作品は、会員にとっても好評でした。今後も地域農業の更なる振興を目指して、明るく元気に様々な活動へ取り組んでいきます。

両沼女性ネットでは新規会員募集中ですので、活動に興味のある方は会津坂下農業普及所までご連絡ください。
(会津坂下農業普及所)



▲活動の様子

＼新規就農者等研修会(第3回)「農業機械の点検・整備の基礎」を／開催しました



▲実機を用いた研修風景

令和5年12月20日、湯川村にある株式会社キセキ東北会津中央営業所において、農業機械の点検・整備に係る基礎知識や技術の習得などを目的に、新規就農者等研修会(第3回)「農業機械の点検・整備の基礎」を開催しました。新規就農者や新規就農希望者、認定研修機関の研修生など15名が参加しました。

株式会社キセキ東北及びやまびこジャパン株式会社東北支社福島営業所の担当者を講師に迎え、安全な農作業について講義していただいたほか、トラクタや管理機、刈払機、防除機などの点検・整備のポイントについて、実機を用いて説明していただきました。

受講者の過半数が就農前の研修生でしたが、グリースアップの頻度やプラグの点検などについて質問が出されるなど、積極的に知識を深めようとする姿勢がうかがえました。

栽培技術や経営管理能力の向上を図るため、次年度も開催を予定しています。

(農業振興普及部)

＼令和5年度「グリーンな栽培体系への転換サポート」/ 実績検討会を開催しました

令和5年12月19日、湯川村公民館において、水稻の省力化技術と環境負荷軽減技術にかかる「グリーンな栽培体系への転換サポート」実績検討会を開催し、実証ほの成績報告を行うとともに、今年度の課題や対策について生産者や関係機関と意見交換を実施しました。

昨年度に引き続き、国の「みどりの食料システム戦略推進交付金（グリーンな栽培体系への転換サポート）」を活用して進めているもので、湯川村では、環境負荷軽減の取組であるマイクロプラスチックの削減と、省力化技術である直播技術（ドローン直播）を組み合わせた「グリーンな栽培体系」の実証ほを設置して、作業実演会や現地勉強会を実施してきました。

今後は、これまで実施した現地実証や検討を基に、年度内に「グリーンな栽培体系」のマニュアルを作成・配布し、技術普及を図ってまいります。



▲湯川村での実績検討会の様子

また、令和5年12月21日には会津坂下町公民館において、さつまいもの省力化技術や環境負荷軽減技術にかかる実績検討会を開催しました。

会津坂下町では、環境負荷軽減効果が期待される資材の生分解性マルチと、省力化技術として収穫機の導入を組み合わせた「グリーンな栽培体系」の実証ほを設置し、実証試験を行ってきました。

検討会では、実証ほにおける成績報告を行ったほか、各技術の課題や対策について、生産者や関係機関と意見交換を行いました。その後、農林水産省産学連携支援コーディネーターの小巻克巳氏から技術的・経営的な助言をいただきました。

今後は、これまでの実績などをまとめたマニュアルを作成する予定です。

(会津坂下農業普及所)



▲会津坂下町での実績検討会の様子

「今日からチャレンジしませんか。GAPを始めよう！勉強会」を開催しました

令和5年12月25日、会津若松市のピカリンホールで「今日からチャレンジしませんか。GAPを始めよう！勉強会」を開催し、認証GAPに関心のある39名が参加しました。

勉強会では、認証GAPの制度の概要について説明したほか、「認証GAPを始めたいけど、何かから始めたら良いかわからない」という要望に応えるべく、認証GAPに長年取り組まれてきた喜多方市の農事組合法人東羽賀ファームと会場とを中継で結び、記帳内容や作業場の様子などの実践事例を紹介しました。

今回の勉強会がGAP認証取得のきっかけとなり、今後の経営向上に役立てられることを期待しています。
(農業振興普及部)



▲勉強会の様子



▲中継した東羽賀ファームでの説明の様子

「第5回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン」を実施しました

令和6年1月6日から2月にかけて、会津管内の宿泊施設（6施設）において、第5回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました。

対象の施設に宿泊し、県産農林水産物等に関するアンケートに回答いただいた方へ福島県オリジナルブランド米「福、笑い」をプレゼントするとともに、会津地域の特産品や6次化商品、GAPの取組を紹介するチラシなどを配布しました。宿泊者からは「良い特産品がたくさんあるのでもっとPRしてほしい」、「会津の特産品を購入できる場所がもっとあった方がいい」などのご意見をいただきました。

また、県外宿泊者へのアンケートの結果では『会津地鶏』『おたねにんじん』『昭和かすみ草』について、それぞれ約5割、2割、1割しか認知されていないことが分かったことから、今後は、更に知名度を向上させるため、積極的に情報発信などに取り組んでまいります。

(企画部)



▲配布した「福、笑い」



▲キャンペーンの様子

フレッシュ農業講座を開催しました

令和6年1月31日、会津農林高校耶麻校舎の2年生を対象に、農業への興味・関心を高め就農を促進する目的で、第2回フレッシュ農業講座を開催しました。

今回は冬季の会津の農業について学ぶために、夏場のきゅうり栽培と冬場の菌床しいたけ栽培を経営の柱として通年雇用を行っている喜多方市の会津農匠株式会社において研修を行いました。

はじめに、会津農匠の取組内容等に関して大川原義男社長より講話をいただいた後、同社で就農準備研修を行っている研修生から、自身の研修内容や今後の抱負等について話を伺いました。最後に、菌床しいたけハウスに移動し、会津農匠株式会社の方々と交流しながら、しいたけの収穫を体験しました。

研修を通して生徒たちの農業への興味・関心が高まったようでした。今回の研修が、参加した生徒の就農意欲向上に繋がることを期待されます。
(喜多方農業普及所)



▲会津農匠株式会社での研修の様子



▲菌床しいたけの収穫体験

一般社団法人会津自然エネルギー機構が 林業研究活動発表会で最優秀賞を受賞しました

令和6年2月1日に林業研究グループ等活動発表会が福島県林業研究センターで開催され、一般社団法人会津自然エネルギー機構の活動が最優秀賞（知事賞）を受賞しました。

発表会では、機構の担当者から「次世代に伝えたい木こりの技！山学校から特殊伐採技術を通して」と題して講演がありました。自然エネルギーへの転換を目標としたシンポジウムを開催するなどにより林業従事者の育成に取り組んでいるほか、林業を生業とする方や森林所有者、学生など幅広い参加者を対象とした「山学校」を開校して伐倒技術の習得や、特殊伐採技術の伝承に取り組んでいるなど、これまで9年間の活動が紹介されました。

また、2月2日には同会場にて林業普及指導員全体研修会が開催され、会津管内における優良なスギコンテナ苗生産に向けた取組として、福島県農林種苗農業協同組合会津支部が行っている優良なスギ苗の生産や花粉の少ない苗木の生産拡大、それらの種子を生産するミニチュア採種園の造成などに対する普及活動の状況について、当所から発表を行いました。
(森林林業部)



▲最優秀賞を受賞した
会津自然エネルギー機構の五十嵐氏（左）



▲会津農林事務所の発表内容

＼学校給食研究会で有機農業の取組について／ 紹介しました

令和6年2月7日、学校給食研究会栄養士部会会津・南会津方部研修会において、学校給食に携わる栄養士の方々に有機農業について理解を深めていただくため、有機農業についての講演を行いました。

はじめに有機農業推進担当から有機JAS農産物の検査認証制度について説明した後、会津地方で30年以上有機農業に取り組んでいる、あいづ有機農法生産組合の横山幸喜氏と玉樹奨平氏から、有機農業に取り組んだきっかけやほ場の様子、慣行栽培との違いなどについて、写真を使いながら講演していただきました。

出席者からは「栽培している様子を初めて見た」、「給食で使ってみたい」などの感想があり、食育に携わる方にとって、有機生産者の思いを感じられる良い機会となったようでした。

(農業振興普及部)



▲講演の資料

＼令和5年度新規就農者等研修会(第6回)を開催しました／



▲研修会の様子

令和6年2月8日、喜多方市慶徳公民館において、新規就農者や就農準備中の研修生などを対象に、経営者として必要なマーケティングの基礎知識の習得を目的とした研修会を開催しました。株式会社河京(喜多方市)代表取締役の佐藤健太郎氏を講師に迎え、「ファンマーケティング」をテーマに、同社の取り組み等について講演していただきました。

参加者から「チラシやSNSで情報発信することの大切さが分かった」「実用的ですぐに取り組むことができそう」「ディスカッションできて楽しかった」などの感想が寄せられるなど、大変好評でした。

今回の研修会が、参加された方々にとって今後の農業経営の発展に繋がることを期待しています。

(喜多方農業普及所)

＼令和5年度会津地方きゅうり生産振興セミナーを開催しました／

令和6年2月9日、JA会津よつばパストラルホールBANGEにおいて、令和5年度会津地方きゅうり生産振興セミナーを開催しました。当日は生産者、関係者など約80名が参加しました。

会津地方のきゅうりは、野菜生産の基幹品目となっていますが、近年の高温、乾燥により、収量や品質の低下が問題となっています。

セミナーでは、株式会社誠和の麻生英文氏から気候変動に応じた栽培管理について講演いただいたほか、種苗メーカー2社から品種特性に応じた栽培管理についてアドバイスをいただきました。

これらを参考に、きゅうりの生育に適した環境や品種特性をしっかりと理解し栽培することで、会津地方が気候変動に負けないきゅうり産地となることを期待しています。

(農業振興普及部)



▲セミナーの様子

地域振興にドキュメンタリー映画を活用している取組を紹介（西会津町）

地域住民に映画を通して地域の未来に対する思いを語り合ってもらい、そのような目的で制作された西会津町奥川地域のドキュメンタリー映画「つぎの民話 西会津編」と、その地域の取組についてご紹介します。

ドキュメンタリー映画「つぎの民話 西会津編」の内容は？

この映画は、ドキュメンタリー映画「私だけ聴こえる」などの監督で有名な松井至さんが監督・撮影・編集して制作されています。

現在、西会津町の奥川地区に住んでいる人々の生活の様子をありのまま映した「結」編と「米」編の2作品が制作されています。

「結」編では、奥川地区の活動を中心として、お祭りの様子や奥川地域づくり協議会での話し合いの様子、地域おこし協力隊の活動などが撮影されています。

「米」編は、農家や西会津の美しい自然の風景を中心に、西会津で農業に取り組む心境や、自分たちの住む環境をどう守っていくかについて語る様子を含んだ内容となっています。

きっかけは、故郷への思いから

もともと住民がどんどん減っている状況で、自分たちには何が出来るのだろうかと危機感を覚えていたところに、ドキュメンタリー映画制作の声をかけられたことがきっかけでした。映画を町の人々に見てもらうことで、制作する側としても、地域おこしの活動について理解を深めながら、町全体で地域振興を推し進めるための一助となるのではないかという思いがあり、取組が進められました。



西会津町での上映会

映画が完成し12月に、奥川みらい交流館で鑑賞会が開催され、「結」編と「米」編の2作品が上映されました。鑑賞会には、地域住民の約2割を超える方が観覧に来られるなど、大いに賑わいを見せました。

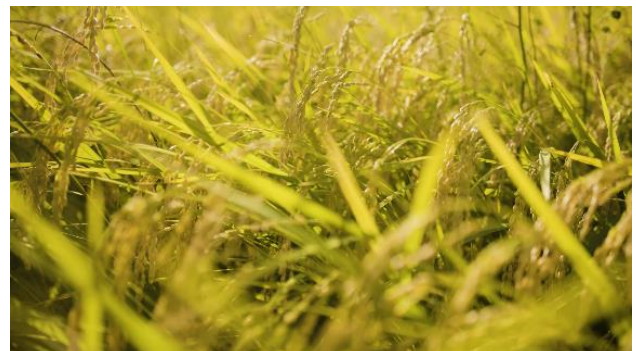
スクリーンを通して映し出された自分たちの住む土地や姿を見て、自ら「実はこう思っていたんだけど」と話すなど、日頃感じていることや、思っていることを自由に語り合う良い機会になったようでした。



SIGMAのレンズで映し出されるもの

「つぎの民話 西会津編」では、株式会社シグマ 会津工場の協力のもと、シグマのシネレンズで撮影された美しい映像がとても特徴的となっています。

シネレンズについて、松井監督は「いつも見ている見慣れた風景が、いつもとは違う特別な風景に見える映像が撮影できる」と話されていました。



自分たちで守っていく

最後に、この映画の企画に携われた西会津国際芸術村ディレクターの矢部佳宏さんに映画で伝えたいことについてお話を伺いました。



「地域振興や地域活性化という言葉を知ると、どうしても行政がやることであって自分には関係ないと思われる住民が多いんです。そのイメージを和らげようと言葉で伝えるのは難しいのですが、ドキュメンタリー映画だと伝えられる情報が多いので、見えにくい活動や自分たちの住む土地の素晴らしさをストレートに伝える手段としてとても有効だと思います。」

そして最後にこんなこともおっしゃっていました。

「映画を通して、自分たちの土地に愛情と愛着を持ってもらい、西会津町の未来をどうするべきか考えて、自ら行動する人が増えてくれたら嬉しいです。」

この映画を観るためには？

- ・参加者の人数によって有料での上映会開催が可能です。
- ※西会津町内での上映は無料

お問い合わせはこちら▼

一般社団法人BOOT boot.common@gmail.com



この映画のトレーラーはこちら▼

■ 「つぎのみんな (西会津編)」

<http://mayoiga-k.jp/news/1589.html>

※まよひが企画さんのHPで見ることができます

つぎの民話、はじめました。

検索



松井監督のインタビューはこちら▼

■ 「『つぎの民話 西会津編』
SIGMA CINE LENSを通して」

YouTubeで

つぎの民話 西会津

検索



西会津町ではこんな
取組も行っているよ！

農家と消費者をデジタルでつなぐ

■ 『Web3.0を活用した

「石高プロジェクト」ってなに？ (紹介編)』

https://youtu.be/A93r-rCaR_g



会津農林事務所からのお知らせ

福島県農林水産部公式YouTubeチャンネル 「1400のネタばらし」配信中

農林水産部職員が、それぞれ自由な発想で企画・制作する農林水産部公式YouTubeチャンネル「1400のネタばらし」。

県産農林水産物のおいしさや「福島ならではの」魅力を伝える動画を続々配信中です。ぜひご覧ください！



会津大学短期大学部 左ゼミの皆さんに給食メニューについてお話いただきました！
(P2「学校給食で会津の伝統野菜『おたねにんじん』を活用した食育を実施しました」参照)



会津の伝統野菜「おたねにんじん」を学校給食で提供しました (2023)



そばの里喜多方市山都町で農業普及指導員が初めてそば打ち体験～会津農林事務所喜多方農業普及所～



#3【会津桐】福島県職員が「桐玉植苗」植えてみた！

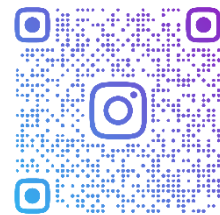
会津農林事務所SNS更新中

会津農林事務所では、InstagramとX (旧Twitter) において6次化商品などを紹介しています。ぜひご覧ください！



X (旧Twitter)

▼このアイコンが目印！



AIZU_NOURIN

Instagram

【ご意見・お問合せ】 福島県会津農林事務所 企画部地域農林企画課

〒965-8501

福島県会津若松市追手町7番5号 (会津若松合同庁舎2階)

☎ (0242) 29-5369 FAX (0242) 29-5389

E-mail : kikaku.af04@pref.fukushima.lg.jp

